

授業者と学生の相互行為がもたらす教育効果Ⅷ

— 科目による授業通信尺度得点および授業評価との関連の違いについて —

北神 慎司 ・ 藤田 哲也

(名古屋大学大学院 環境学研究科) (法政大学 文学部)

本研究では、前件(藤田・北神, 2008, 日教心)に引き続き、授業通信の受け止め方が、同一の受講生であっても科目によって異なるか否かを、授業通信質問紙の各尺度得点の比較によって検討する。また、授業評価の2側面(自己, 授業自体)との関連、および授業通信尺度の相互の関連が異なるかどうかについても確認する。

【方法】

授業通信質問紙(藤田・北神, 2008; 前件)の5つの下位尺度および授業評価の2つの下位尺度ごとに、それぞれの尺度に含まれる項目1つあたりの評定値平均を求めた(可能得点範囲は6~1)。

【結果と考察】

・**授業評価** まず、授業評価の2つの下位尺度得点(Table 2)が科目によって異なるかどうかを、科目(統計学/学習心理)×評価(自己/授業自体)の被験者内2要因分散分析によって検討した。その結果、科目の主効果(統計<学習)、評価(自己<授業)および交互作用のすべてが有意であった。単純主効果の検定の結果もすべて有意であった。交互作用が有意になったのは、学習心理の方が自己評価と授業自体の評価の差が小さかったためであろう。

Table 2 科目ごとの授業評価得点の平均(SD)

科目	自己(SD)	授業自体(SD)
統計学	3.97(.92)	5.22(.56)
学習心理	4.88(.59)	5.55(.40)

・**授業通信質問紙** 次に、授業通信質問紙の各下位尺度ごとに、評定値平均(Table 3)が科目間で異なるか否かをt検定によって比較したところ、「積極的関与(p<.01)」と「理解深化(p<.05)」では統計<学習となったが、他の尺度間には有意差は見られなかった。すなわち、科目による授業評価の受け止め方の違いは、全体的というよりも、尺度(因子)に特定のことが確認された。

・**各尺度間の関連** 科目ごとに、授業評価と授業通信の各尺度間のピアソンの相関係数を求めた

(Table 3)。全体的に、統計学では有意だった授業評価-授業通信間の相関が、学習心理では有意でなくなるか、小さくなるという特徴が見られた。

以上のことから、授業通信の果たす機能は科目によって異なることが示唆される。今後は各科目における教育目標や授業方法との関連について詳細に検討することで、授業通信の教育効果をより実質的に把握することが可能になるであろう。

Table 3 科目ごとの、授業評価・授業通信質問紙の各尺度の評定値平均(SD)と尺度間の相関(N=45)

	平均(SD)	授業評価		授業通信				
		自己	授業自体	F1	F2	F3	F4	F5
統計学								
自己評価	3.97(.92)	—	.22	.50**	.45**	.33*	.33*	.12
授業自体の評価	5.22(.56)	.22	—	.46**	.51**	.48**	.51**	.18
F1: 積極的関与	4.40(.78)	.50**	.46**	—	.67**	.67**	.50**	.26
F2: 理解深化	4.32(.92)	.45**	.51**	.67**	—	.46**	.43**	.43**
F3: 好意・娯楽	4.72(.95)	.33*	.48**	.67**	.46**	—	.39**	.23
F4: 情報収集	5.32(.72)	.33*	.51**	.50**	.43**	.39**	—	.17
F5: 授業促進	3.92(.97)	.12	.18	.26	.43**	.23	.17	—
学習心理								
自己評価	4.88(.59)	—	.37*	.36*	.20	.13	-.06	.08
授業自体の評価	5.55(.40)	.37*	—	.33*	.34*	.07	.12	-.10
F1: 積極的関与	4.73(.65)	.36*	.33*	—	.64**	.65**	.34*	.32*
F2: 理解深化	4.60(.99)	.20	.34*	.64**	—	.58**	.47**	.21
F3: 好意・娯楽	4.87(.75)	.13	.07	.65**	.58**	—	.15	.37*
F4: 情報収集	5.48(.55)	-.06	.12	.34*	.47**	.15	—	.21
F5: 授業促進	3.96(.97)	.08	-.10	.32*	.21	.37*	.21	—

*p<.05, **p<.01